



①パフォーマンスダンパー自体を開発したのはヤマハ発動機で、四輪にも使われることが多い。二輪用はワイズギアが車種ごとにボルトオン装着できるようにステー類を開発している



PERFORMANCE DAMPER for SEROW250

¥3万800円(税10%込)
 ①ワイズギア ②0570-050814 ③https://www.ysgear.co.jp

個人的にセロー250を購入した筆者。以前からその存在を知っており、マシンをゲットしたら試してみたいと思っていたのが「パフォーマンスダンパー」だ。実際に試す機会を得たので、その効果をレポートしよう!

吉田 朋 : 文
 text by Tomo Yoshida
 関野 温・吉田 朋 : 写真
 photo by Atsushi Sekino & Tomo Yoshida

剛性を上げるのではなく 振動を制御する!! 制振

車体の基本骨格となるフレームは、車両メーカーがさまざまなテストを繰り返して仕様が決まる。材質であったり、剛性バランスであったり、たまたまガチに硬めてしまったり、曲がらないバイクになってしまうことも。フレームのしなりも重要なファクターで、それらのバランスを考慮したうえで、最終的に市販化されているのだ。ちなみに古いバイクを現代的にカスタムすると、フレーム剛性が劣るため補強部材を溶接するのが一般的だ。こちらも長年のトライ&エラーを繰り返して導き出されたもの。また溶接するため技術も必要だし、フレーム単体にするため作業量も多い。当然素人が作業できるわけもなく、プロに依頼する

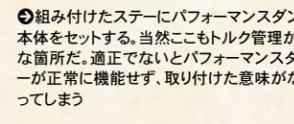
ボルトオン装着が可能!

パフォーマンスダンパーの装着は基本的に加工不要のボルトオンが可能。ただし兄弟車であるトリッカーに関しては一部車体パネルへの加工が必要となる。加えてトルク管理が重要な部分。適正なトルクで締め付けなければ、パフォーマンスダンパーの性能は発揮されない。筆者はトルクレンチを所有していないので、車両を購入したベア世田谷に依頼した

②後ろ側のステーはレギュレーターのベースと共通締めする。純正ボルトではなくキットに付属するボルトに変更。このトルクは小さいが、しっかりとトルクレンチを使ってトルク管理を行なうこと



③前側のステーはフレームに組み付ける。ここは大きなトルクが必要になる部分。トルク不足で緩んでは危険だし、オーバートルクではボルトをナメてしまう。DIYでやるなら注意しよう



④ここまでトルクレンチを使うことを強調してきたが、最初は仮止め。すべてのパーツを組み込んでから、本締めをトルクレンチで行なう。また一部ボルトにはロック剤を塗るよう、取り扱い説明書に記載されている

⑤専用部品だけあって、しっかりとキャスタのホスなせ、周辺パーツの干渉もない。なお、2008年式以降のX250Xトリッカーにも装着可能SR400用の設定もあり



あらゆるシーンで 走るのがさらに楽しくなる!



④タンDEMや荷物を満載にしてツーリングに出かけるセロー250オーナーなら、より快適に走ることができるだろう。見た目は小さいが、パフォーマンスダンパーがもたらす効果は大きいのだ



⑤高速道路だけでなく、ワインディングやダート走行でもパフォーマンスダンパーの効果はしっかりと感じられた。今より気持ちよく、楽しく走りたいたいと考えているセロー250オーナーにオススメだ

ことになり、相応の出費がともなう。セロー250に乗っているならわかると思うが、高速域になると一般的なロードバイクと比べるとやや不安な挙動を見せるが、それはフレームに起因している。もちろんそれだけではなく、結びつくようなものではないことも、オーナーなら知っているはず。ただ長時間走るにホテイブローのように徐々に疲労が蓄積されていく。これが改善されるなら、セロー250ライフはもっと楽しくなるのに……。こう思うオーナーが多いことだろう。

その思いを実現してくれるアイテムがパフォーマンスダンパーだ。先にも述べた旧車のフレーム補強のように、溶接をはじめとする大がかりな作業は必要ない。ワイズギアがステーとボルト、パフォーマンスダンパーをセットにし、ボルトオン装着できるように

なっている。工具がそろってればDIYでも取り付け可能なものもいくつかある。

さてこのパフォーマンスダンパーを開発したのはセロー250の生みの親であるヤマハ発動機だ。もともと四輪用に開発されたもので、その効果の高さから、国内外のメジャーな四輪メーカーに純正採用されるほど。それが続けてバイクに向けてリリースされたのだ。どういった仕組みになっているのかを簡単に説明しよう。四輪二輪問わず、フレームは走行中、つねにわずかな変形が生じ、振動を生み出してしまふ。セロー250もこの振動が原因で高速走行すると不安定さを感じてしまうわけだ。パフォーマンスダンパーはその名に「ダンパー」とつくことからわかるように、高圧窒素ガス封入オイルダンパーをベースに開発されている。パフォーマンスダンパーを追加することでフレームの変形が安定し、振動がすばやく収束するようになるのだ。

実際に走ってみると、街乗りレベルでも違いを感じることができる。交差点でもそれまでよりもシャープかつ安

定して曲がることのできるし、路面状況の悪い幹線道路を走ると安定感が違う。そしてなにより顕著な差を感じたのが、高速道路走行だ。パフォーマンスダンパー未装着の状態では、新東名高速道路の120km/h区間を何回か走ったが、不安定さを感じ速度を抑え気味に走っていた。ところが装着すると不安定さを感じない。ついさ速レブリットに入り、メーターを見てあわててアクセルを戻すほど違うのだ。

ワインディングでもロードバイクほどではないが、それまで以上に攻めた走りができるように。またモトクロス/エンデューロコースに持ち込んで走ってみても、安定感がアップしている。それまで以上に攻めた走りが楽しめるので、それまで以上に攻めた走りが楽しめるので、それまで以上に攻めた走りが楽しめるのだ。

パフォーマンスダンパーを装着すれば、それまで以上に楽しいセロー250ライフが送れるようになる。今回はインプレッション用として貸し出したが、外したくない!と心の底から思ってしまったほどである。